

Ⅱ 本校の研究について

研 究 部

1. 研究テーマ

『自立に向かう子どもたち』
——人やものとかかわることを大切に——

2. 研究の経緯

(1) 研究テーマについて

本校では、昭和59年度以来「自己教育力」の育成を中核として研究を進めてきた。平成5年度から7年度までは、「豊かな感性を育む」を研究テーマとし、自己教育力の育成を子どもの豊かな気づきや感じ取りを育む支援という点に焦点をあてて、各教科・領域で、実践を重ねてきた。同時に、現実の子どもたちを見つめた時、学習を含めた子どものくらし全体に視野を広げることが必要であると考えた。そこで、子どもたちの現在の課題・今後身につけてほしい資質や能力について検討し、整理し直した。その結果、本校のめざす子ども像を、「発達段階に応じて、他との関わりの中で、自ら考え、判断し、行動できる子ども」とした。そして、平成9年度から「自立に向かう子どもたち」を研究テーマとして実践に取り組んできた。この子ども像をめざしていくことによって、子どもたちが身につける力は、主体的思考力や問題解決能力、関わりの中で自分に自信をもち自分らしさを探究していく力であると考えた。

(2) サブテーマ「自分で決める場を大切に」(H9～H11)をふりかえって

子どもたちの「自立」に向けて、平成9年度から3年間「自分で決める場を大切に」をサブテーマとして取り組んできた。自分で決めるためには、今までに得た知識や日常の経験などを総動員しなければならなくなる。また、自分で決めたからこそ納得のいく活動をしたいという気持ちが強くなり、活動に没頭することができる。そして、成功や失敗の原因を自らふりかえり、次への活動に向けて意欲を高めることができると考えたからである。

3年間の取り組みで、以下のような子どもたちの姿が見られるようになってきた。

- ・意欲や関心が高まる
- ・見通しをもとうとする
- ・自分で活動や解決方法を考え出そうとする
- ・失敗から学び、課題を見つけようとする
- ・生活や行事を自分たちで創り上げようとする
- ・自分自身を見つめようとする

同時に、今後次のような子どもたちの姿をめざすことが、より質の高い自己決定につながるものと考えた。

- ・他と十分にかかわり合いながら自己決定をしようとする
- ・自分は何のために何をするのかという、しっかりとしためあて意識をもとうとする
- ・自分自身や友だちのよさや成長を感じ取ろうとする
- ・自分の決定や活動に責任をもとうとする

3. 本年度の取り組み

(1) 本校のめざす自立した子どもの姿

本校では、「自立」は完成されたものではなく、常に「自立」という方向をめざしていくものであるととらえ、「自立に向かう子ども」として、そのめざす子ども像を考えてきた。これまでの研究をふりかえり、全員で検討をする中で、本校のめざす「自立」とは何か、そのために必要な力は何かを今一度見直し、研究を進めることにした。

この検討の中で出てきた本校のめざす自立した子どもの姿は、「他とのかかわりの中で、自ら考え、判断し、行動し、ふりかえる」ことによって、自分らしさを追究していく子どもである。子どもたちが自立に向かって進むときには、それぞれが自分の考えだけで進むのではない。他と十分にかかわり合い影響し合いながら自分自身の考えを深め、共に進んでいくのである。めざす子どもの姿における

「考え」とは、

- ・自らが働きかけること
- ・自らが問いをもつこと
- ・めあてに向かって見通しをもつこと
- ・やりたいことを自分で見つけ、その実現に向けてどうすればいいか考えること

「判断し」とは、

- ・まわりの状況に応じて考えること
- ・自分も他者も大切にしていること
- ・情報を受け取り、比べたり味わったりして考えること
- ・考えたことをもとに、自分の立場を決めること

「行動し」とは、

- ・自分を表現すること
- ・自らかかわること
- ・進むべき方向に向かっていくこと
- ・困難に立ち向かい、最後までやりとげようとする

「ふりかえる」とは、

- ・自分の判断、行動をふりかえり、次の判断や行動に生かしていくこと
- ・次の活動への見通しをもつこと
- ・自分を知らること
- ・自分を伸ばすための方法を知ること

日々の生活や学習の中で、このような子どもの姿を追い求めていくことが、めまぐるしく変化する現代社会において、将来に向けてたくましく心豊かに生きていくために必要な力を培うものと考えられる。

(2) サブテーマ「人やものとかかわることを大切に」の設定

これまでテーマ実現に向けて、子どもたちの日々の暮らし・授業・学校行事などで大切にしてきたことは、自分で決めることである。子どもたちの姿から、見通しをもち、自分で活動方法を考え出し、活動をふりかえり、新たな課題をもつという意識や態度が見られるようになった。自分で決めるのも、追究するのも、ふりかえるのも、さまざまなかかわりの中で行われてきたはずである。なぜなら、人間は一人で生きているのではない。自分を取り巻くさまざまな人やものの中で生きているからである。しかし、子どもたちは、自分の活動に没頭するあまり、他者の考えやよさに目が向きにくくなったり、お互いが影響を及ぼし合いながら高まり合っていることに気づかなかつたり

することもあった。これは、人やものとかかわることを十分保障できていなかったり、子ども自身がどのようにかかわればよいのかがよく分からなかったりしたためだと考えられる。

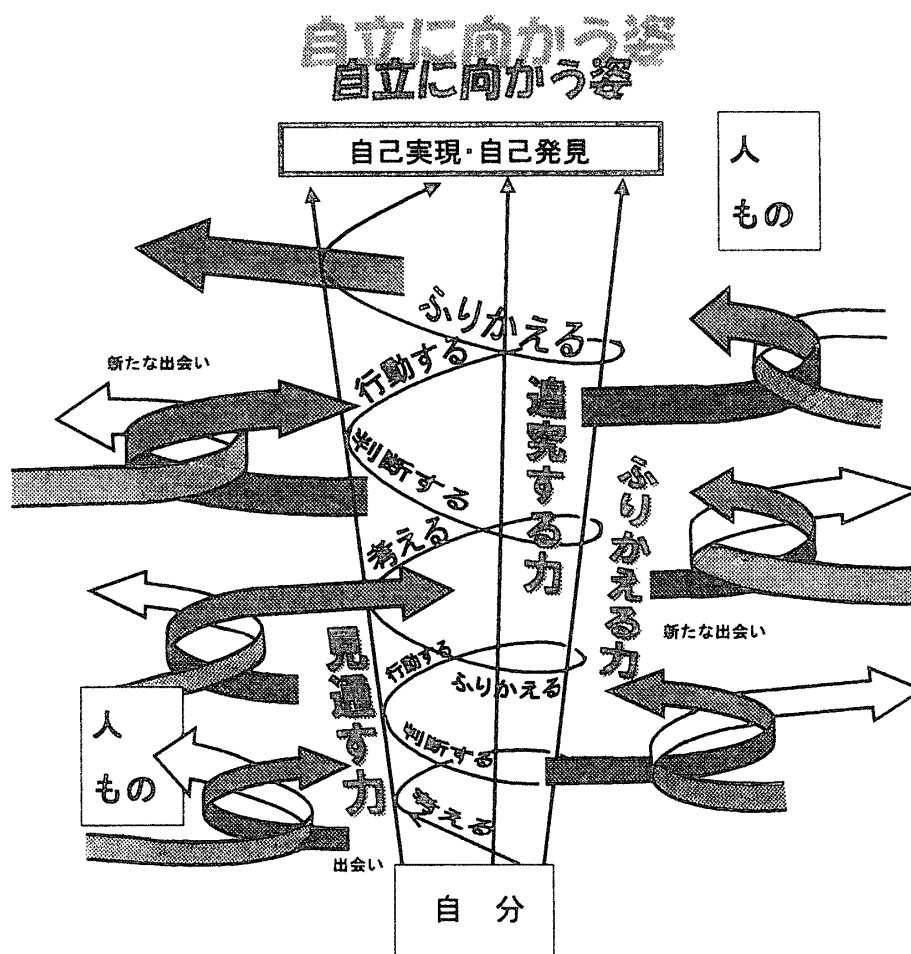
そこで、人やものとかかわることをより大切にしていきたいと考えた。人とかかわり合うことで、自分だけでは気づかないことに目を向けたり、他者の考えを参考にしながら自分の考えを深めたり、修正したりしながら、自他ともに高まり合っていくことができる。また、これまで自己決定によって芽生えてきた個人の意欲や関心、主体的に思考する態度や問題解決能力などを、より高めていくことにもなる。そして、その力が集団の中で生かされ認められることで、子どもは自分に自信をもち、他者のすばらしさを認め、それぞれが自分らしさを追究していくようになるであろう。また、ものとかかわり合うことで、自分の五感を働かせ、楽しさや心地よさを味わったり、興味や関心をもったりすることができる。そして、これまでの自分の知識や経験からは考えることのできないものと出会ったとき、新たな問いをもつことにもなる。さらに、かかわったものを通してその回りのものや出来事にも興味や関心を広げ、自分の課題設定や追究活動に生かしていくことができるであろう。

そこで、新しいサブテーマ「人やものとかかわることを大切にして」を切り込み口とし、昨年度までの計画や実践を見直しながら、研究を深めていくこととした。本校のめざす自立した子どもの姿は、自ら考え、判断し、行動し、ふりかえることによって、自分らしさを追究していく子どもである。子どもたちが、自立に向かう学習活動で大切にしてきたことは、「自分なりに見通しをもち、自分の課題を追究し、ふりかえる」ことである。ここで、子どもたちが人やものとかかわることが何より大切であり、かかわりが全ての活動を広く豊かにしていく土台になると考えた。

子どもたちにつけていきたい能力や子どもの姿（態度）について、以下のように整理してみた。よりよい姿に近づくよう、これから実践を積み重ね検討を加えていく。

	態 度	能 力
見 通 し	自分から取り組もうとする態度	問題を見つける力 めあてをもつ力 計画を立てる力
追 究	自分から働きかけようとする態度 最後までやりとげようとする態度	方法を考える力 判断する力 行動する力 まとめる力
え り か ふ り	自分を見つめようとする態度 次へ生かそうとする態度	次へ生かす力 自分のよさに気づく力 新たなめあてを生み出す力
	↑↑	↑↑
か か わ り	相手（対象）を感じ取り受けとめようとする態度 理解しようとする態度 自分からかかわろうとする態度	人の話を聞く力 同じ所や違いに目を向ける力 比べたり深めたりする力 思いや考えを表現する力

かかわりに視点をあてた「自立に向かう子ども」の姿を図に表すと次のようになる。



4. テーマの実現に向けて

(1) 教科・領域の授業

教科・領域においては、教科や単元、さらには学習場面によって「人やものとかかわること」はいろいろな形をとるものと思われる。いずれの場合も、かかわることによって自分で決めたことや自分の追究をより広く見つめ直し、自分自身をより深くふりかえることが期待できる。そして、他者とのよりよいかかわり合い方をも模索しながら、共に高まっていくであろう。

本年度も、各教科・領域における基本的な考えを出し合い、日々の様子から子どもの姿を見とり、子どもと共に日々の授業を創り上げ、実践を積み重ねていきたい。

(2) 学校行事・宿泊学習

子どものくらしを見直し、子どものくらしとのバランスを考慮しながら総合的に考えて平成9年度から2学期制を進めてきた。当初のねらい通り、ゆとりのある行事や学習になっているか、子どもたちが自分たちの力で活動を創り上げているか見直ししながら、今年子どもたちに合った内容となるように実施し、あわせて総合的な学習との関連も図っていく。また、宿泊学習については、これまでのねらい、場所、時期、内容などについて検討を重ねつつ進めてきた。本年度より3年生以上で1学年1宿泊学習として完全実施していく。

(3) 総合的な学習

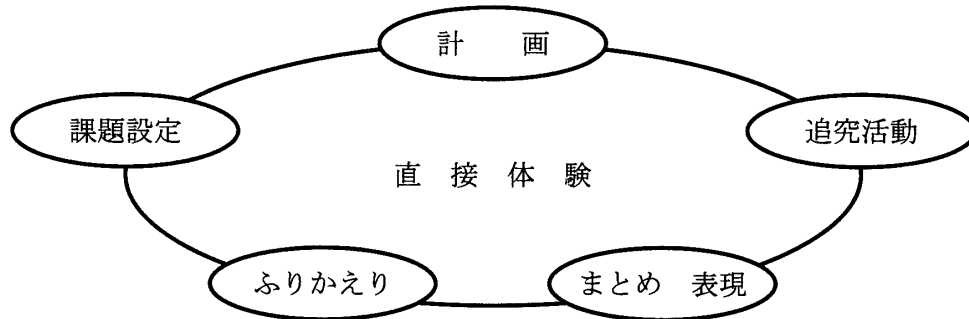
① ねらい

身の回りの環境と主体的にかかわり、自分なりの課題をもち追究していくことで、自分自身を見つめ共によりよく生きていこうとする子どもを育てる。

② 基本的な学習の流れ

総合的な学習を進めるにあたって、何よりも「直接体験」を重視してきた。それは、体全体を通しての丸ごと体験は、実感、満足感、達成感、自分発見など、子どもたちが自立に向かっていくために大変重要なものを与えてくれると考えるからである。それらは、子どもたちの人間形成にも深く影響を及ぼし、個性をも目覚めさせてくれる。また、抽象的な思考を育む上での土台となると共に、考えたことの検証の場にもなるものである。そして、子どもたちが、課題設定から追究活動へと進むときも、方向性と共に意欲も喚起してくれる。そのため、本校では、体験を重視しながらも体験のみに終わることのないよう、体験をふりかえり、体験で得たものを焦点化し、追究課題へと実らせる過程を大切にしている。

本校の考える「直接体験」を中核とした、基本的な学習の流れは次のようになる。



③ 教科・領域との関連

総合的な学習と教科、特別活動、道徳との内容の関連について整理し、本校の考える総合的な学習の位置づけを明らかにしてきた。

どの教科・領域においても「めざす子ども像」に変わりはない。研究テーマ「自立に向かう子ども」をめざして、教科、領域、総合的な学習のそれぞれの特性を生かした活動を展開していくという立場から話し合った。

《特別活動》

- ・ 集団活動
- ・ 集団としての自覚
- ・ 自主的、実践的態度

《道徳》

- ・ 道徳的心情
- ・ 価値
- ・ 道徳的実践力

《総合的な学習》

- ・ かかわる
- ・ 自分で決める
- ・ 自分自身を高め、伸ばす、ふりかえる

子どもたちの実態に応じてそれぞれの活動が展開されること、結果ではなく過程を重視していくことなど大きな共通点もある。

本校の総合的な学習は、子どもたちにとって望ましいと思われる活動を仕組む上で、既存の教科や領域の枠を取り外して創り出したものである。子どもたちがより主体的に活動をしていくことができるように、実践を積み重ねながら、教科・領域との関連について内容やねらいから見直しを図っていく。

④ 年間活動計画の作成

総合的な学習を進めるために、「人間」「環境」「自分タイム」「コンピュータ活用」の4領域を設定した。そして、各領域の基本的な考えやねらいを検討し、年間活動計画を作成してきた。

今年度も、新しいサブテーマに照らして各領域の基本的な考え方を見直し、単式用、複式用、養護学級用のすべての学級を網羅した年間活動計画を作成した。作成にあたっては、各学年部で昨年度の活動や支援などの情報交換をしながら、今年度の子どもたちに合った計画になるように修正を加えていく。また、教科・領域と総合的な学習とのバランスや、行事との関連も図っていく。

⑤ 授業時数について

- ・ゆとりの時間と火曜日の学級裁量の時間を活用し、週2時間、1年間を35週として考えると70時間となるが、新教育課程に移行するまでは、行事の関連から年間の総時数を60時間とする。
- ・総合各領域への配当時間は、下記の表に示す時間数を基本とし、各学年に任せる。
- ・低学年の総合的な学習は、コンピュータ活用のみ、年間15時間をあてる。

	人 間	環 境	自分タイム	コンピュータ活用
低学年	/	/	/	15
中学年	15	15	15	15
高学年	10	10	28	12

* 障害児教育の時数については、別途計画する。

(単位：時間)

⑥ 学習環境整備

総合的な学習が、子ども主体の活動になり、より子どもの思いに応えるものとなるよう、引き続き次の学習環境整備を行う。

○人的環境整備

学校は、子どもたちにとってかけがえのない「生活の場」である。ここで出会う人々が、最も大きな学習環境となる。そこで、子どもたちが、ごく自然に周囲の人々とかかわりをもてるように、そしてかかわりを広げていけるように、学校を基点とした人的環境を整備していく。

- ・担任、専科、保護者などによるネットワーク体制づくり

○物的環境整備

子どもたちが、自分から進んで活動をしていくとき、その場で追究や判断の材料となるさまざまな情報を得ることが必要となる。いつでも何回でもそこで情報を得ることができ、しかも気軽に身近な体験の場となるように、整備していく。

- ・図書室、特別教室の整備充実
- ・インターネット整備
- ・体験場所、公共施設に関する資料整備

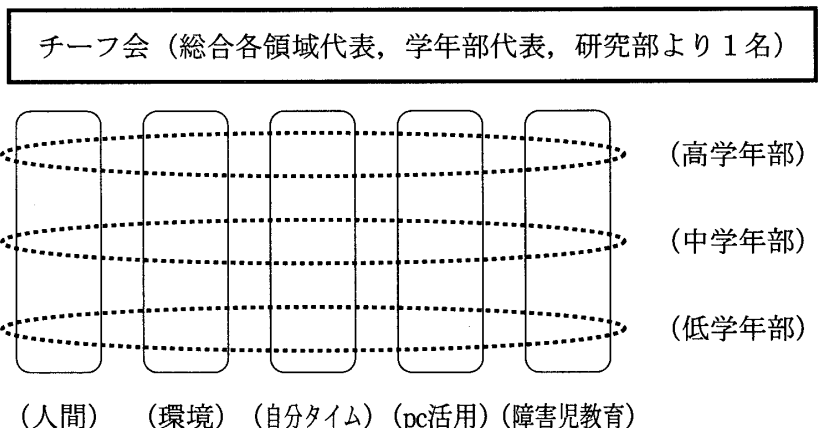
○場の整備

自分たちの活動をふりかえり、その活動を広めたり次への意欲を高めたりするために大切なのが、場の設定である。全校が、かかわり合える場を適宜工夫しながら設けていく。

- ・発表、展示会
- ・掲示板、放送などの利用

⑦ 研究推進組織

取り組みを充実したものにするために、以下のような組織で研究を推進している。



〈チーフ会〉

- ・総合的な学習と教科、道徳、特別活動との関連についての見直し
- ・総合的な学習のねらいの検討
- ・総合各領域間、各学年部間の調整

〈学年部会〉

- ・総合各領域担当時間の検討、年間活動計画の作成
- ・基本的な学習のねらいにおける手立てと支援のあり方の明確化
- ・環境整備のための希望や要求のまとめ

〈総合領域プロジェクト〉

- ・総合的な学習と教科、道徳、特別活動との関連についての再検討
- ・総合各領域のねらいと各学年部のねらいの調整
- ・基本的な学習の流れにおける手立てと支援のあり方の明確化
- ・全体のねらいと各学年の内容の検討